

平成 30 年度

「校長経営戦略支援予算配付申請書」

大阪市立矢田中学校

校長 西川 祐功

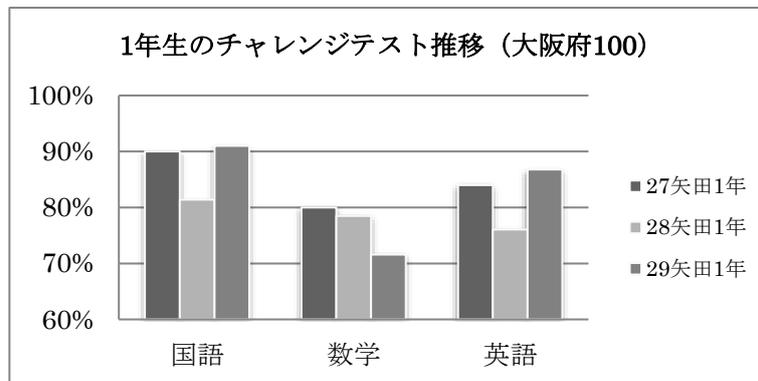
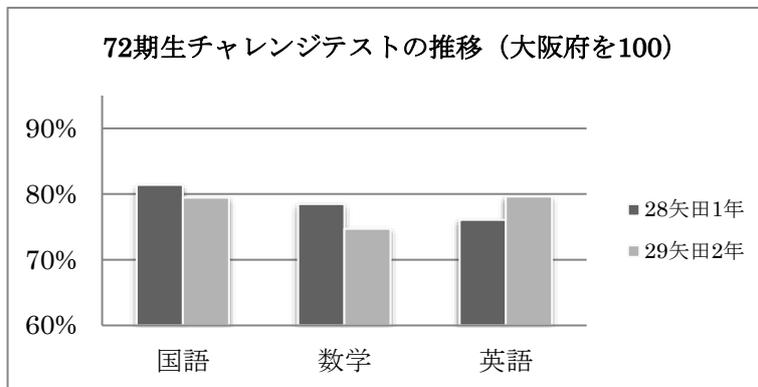
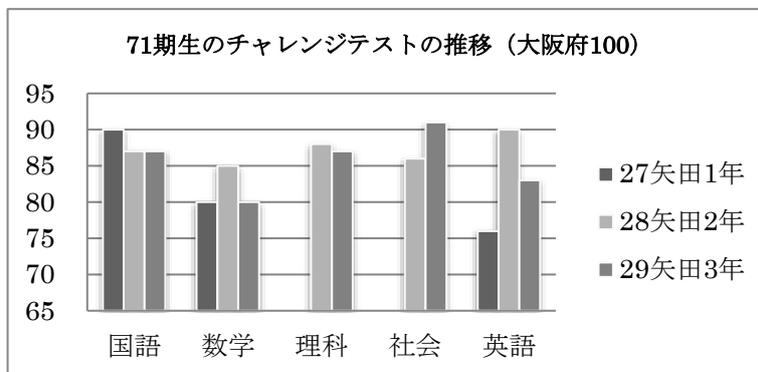
平成 30 年 4 月

## 大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算配付申請書(総括)

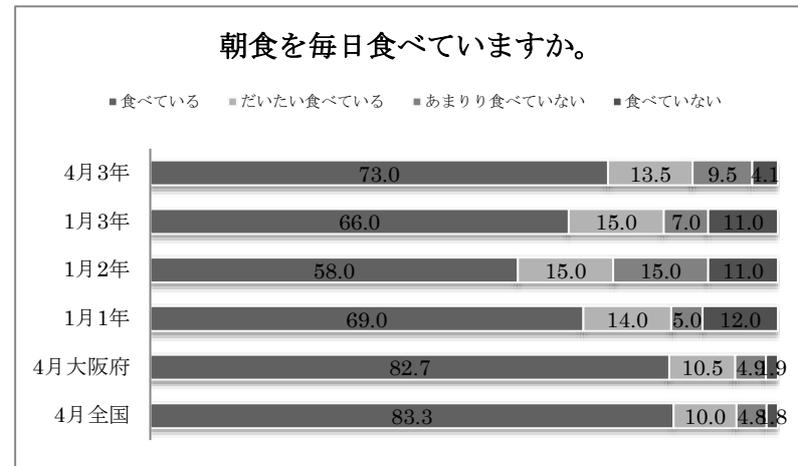
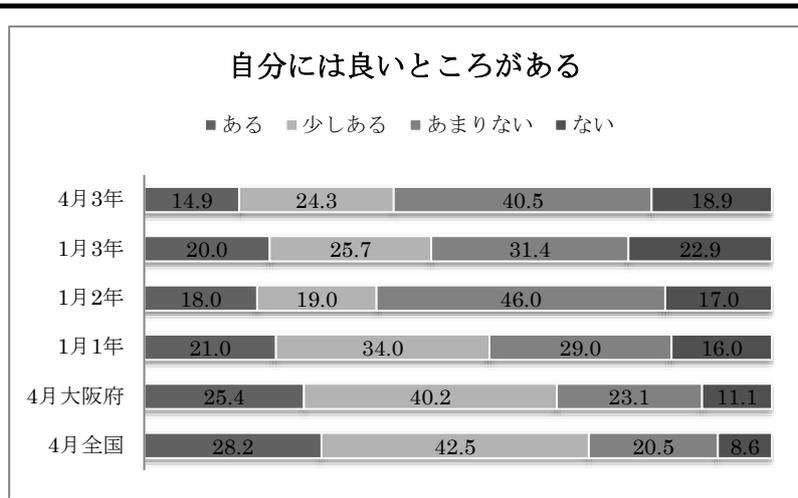
## 1 学校運営における現状と課題

## 現状と課題

本校の客観的現状に目を向けると、生活保護率は 20%、生活保護を含めた就学援助率は 58%、両親がそろわない生徒の率が 38%と大阪市平均に比べて極めて厳しい状況がわかる。また、30 日以上欠席している生徒の割合は、昨年度の 3 年生で 17.2%、2 年生で 12.8%、1 年生で 11.8%、全校平均で 14.4%と全国と比較して 5 倍、大阪市と比較しても 3 倍と、極めて高い状況にあり、100 日以上の欠席者も 13 名 (5.7%) となっている。この数値を見ると、当該事案も氷山の一角である可能性を疑われる状況である。遅刻者も年間で 3000 人を超えており非常に多い状況にある。



学力の状況を見ると、71 期生 (H29 年度末卒) では、大阪府平均の 75%~90%の得点力で、1 年からの推移を見ても、国語で 4% 下降し、数学では 2 年生で一旦向上したが、その後の 3 年生で下降し、英語では、8% 上昇した。理科では 2 年生から、1% 下降し、社会では、5% 上昇した。全体的に見て学力を向上できなかったとは言えない結果であった。進路状況は、81 人中 80 人が進学し、私学は 100% 合格、特別選抜は、6 人中 5 人が合格 (83%)、一般選抜は、55 人中 52 人合格 (95%) であり、例年より高い結果となった。72 期生(現 3 年)では、国語で 2%、数学で 3% 下降し、英語では 4% 上昇した。全体的には、大阪府の 80%~75%の得点力である。1 年生は、大阪府平均と比較して、国語で -9%、数学では -28%、-13% といずれも下回っており、特に数学での格差が大きい。全体的には、英語では多少の向上はみられるが数学では大きく下降傾向にあり今後の取組が必要である。



とりわけ大きな課題と考えられるのが、左の2つのグラフで確認できる、自尊感情と基本的な生活習慣に関わる課題である。4月は全国学習状況調査の結果を表しており、1月は校内での学校評価アンケートの結果である。3年生においては、自尊感情で大阪府平均を-26.4%と極めて低く、1月の時点でも6.5%回復しただけである。2年生ではなお一層低い状況であり、最優先の課題としてとらえる必要がある。基本的な生活習慣においても、どの学年も低い状況であるが、とりわけ2年生（現3年生）においては、朝食をとらない生徒の割合が25%を超えており、学習や成長のみならず情緒にも大きな影響を及ぼしており、地域・保護者を交えた対応が必要である。

全国体力・運動能力・運動習慣調査においても現3年生は例年に比べて課題の多い結果となっていることもふまえ、現3年生においては、あらゆることにおいて、大きな課題が残されている。卒業までの1年間、全力で課題解決に取り組む必要がある。

一方、生徒の安全にかかわっては、築44年を経過した校舎の老朽化が進み、特にトイレの衛生状態や、管理状況が課題となってきている。また、閉鎖する教室やフロアもあり、安全管理上問題もある。

生徒の健康面でも、6割近い就学援助率があるにもかかわらず、虫歯の治癒率は2割にも達しておらず、生徒たちの健全な成長を考えると問題である。その他、基本的な生活にかかわって、睡眠習慣の問題や食習慣の問題も大きく、地域・保護者を巻き込んだ総合的な取組を構築していく必要がある。

## 2 学校運営の中期目標

- 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**
- 平成29年度～32年度の年度末までのいじめアンケートで、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
  - 平成32年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成28年度より8%向上させる。
  - 平成29年度～32年度の年度末までの校内調査において不登校の生徒の割合を、4年間で20%削減させる。
  - 平成29年度～32年度の年度末までの校内調査において遅刻の生徒の割合を、4年間で20%削減させる。

- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。
- 平成 32 年度の学校評価保護者アンケートの「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目の肯定的な意見を示す割合を 80%以上にする。(28 年度 68%・29 年度 80%)

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 70%以上 (28 年度 61, 5%) にする。(29 年度 39.2%)
- 平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にすると態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度 (62%) より 8%向上させる。(29 年度 67%)
- 平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度 (55%) より 8%向上させる。(29 年度 61%)
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の無答率を、大阪市平均を下回らないようにする。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の正答率 30%以下の生徒の割合を昨年度より 8%削減する。
- 平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点が、大阪市平均を下回らないようにする。
- 平成 32 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 35%以上にする。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査において合計点が、全国平均を下回らないようにする。
- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査においてむし歯の受診率を 4 年間で 20%向上させる。
- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査において給食のアレルギー事故を 0 とし、残食量を毎年 5 %削減する。

3 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

**【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】**

**全市共通目標 (小・中学校)**

- ①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ②年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

**学校の年度目標**

- ①年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より 5%向上させる。
- ②年度末の校内調査において、遅刻の生徒の割合を、前年度より 10%削減させる。

③年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を100%とする。

④年度末の校内調査において、「道徳の授業を前向きに取り組んだ。」の項目を肯定的に回答する生徒の割合を60%以上とする。

⑤年度末の校内調査における「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。

⑥年度末の校内調査において「学校では、人権を尊重し、大切に作る心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。

⑦年度末の校内調査（対保護者）における「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目に対して、肯定的な意見を示す割合を85%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

②中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。

③中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。

④年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、20mシャトルランの結果を大阪市平均並みに向上させる。

#### 学校園の年度目標

①年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。

②平成30年度の大阪市英語力調査（英検I B A）における、3年生の英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。

③平成30年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。

④年度末の校内調査において、歯科の受診率を昨年度より5%向上させる。

⑤年度末までの校内調査において、給食のアレルギー事故を0とし、残食量をできるだけ少なくする。

## 4 29年度の自己評価結果の総括

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・『いじめ』『差別』を絶対に許さない学校」を目指して、昨年来のいじめ事案への対応のみならず、その他の事案に対しても、教職員間の情報共有と組織的対応を進めるべく、「いじめ防止対策委員会」を「いじめ不登校対策委員会」と改称すると共に、組織の有機化を図り、迅速かつ丁寧な対応に努めることができた。

・不登校生徒数や遅刻生徒数の増加に歯止めをかけるには、至っていないが、生活保護

世帯生徒が20%、就学援助受世帯生徒を加えると50%を超える実態を鑑みると、家庭に課題を抱えている生徒が多く、根本的な解決に向けた、より一層の関係諸機関と連携・連動した動きの構築が必要である。

・校内生活においては、一定の落ち着きを見せているが、生徒間トラブルや、学校のきまりを守れないことに対する指導について、当該生徒の心情や背景に迫りながら、うちなる人権意識や規範意識のさらなる醸成が必要である。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・依然として、基礎的・基本的な部分における、学力面の課題が残っており、家庭学習を含めた、学習習慣の未定着が大きな要因と考えられる。そのためにも、第一義的には、各教員の授業力のさらなる向上が急務であるとともに、ショートステップ教材の整備や、放課後補習等の学習習慣定着に向けた諸施策を継続させるとともに、さらなる質的向上を図っていきたい。

・生徒の「自尊感情」や「自己肯定感」の低さも、生活面のみならず、学力面での課題に起因すると考えられ、「学校享受感」も含め、生徒の内的な意欲や興味関心を高めることを、教職員全体の共通認識のもと、検討していかねばならない。

・本年度より始まった親子方式による「学校調理給食」や、2回実施することができた「学校保健委員会」など、生徒の心身ともの健康について、前向きに捉え、取り組むことができた。ただ、残食率の高さや受診率の低さを解消するためにも、より一層の取組が必要である。

・学力向上の基盤となる、生徒の「生活向上」に焦点を当て、保護者・地域・関係諸機関と連携及び連動した新たな取組を検討していかねばならない。

#### 5 30年度の自己評価結果の総括 ※運営に関する計画再掲(年度末に記述)

--

#### 6 事業執行管理体制名簿

学校長 ( 西川 祐功 )

教頭 ( 田中 淳 )

学校事務職員 ( 蔵之前 槇 )

申請受付日  
 指導部で記入 →

【様式 2 - 1】  
 (所属コード 742692)

大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】配付申請書

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において「学校では、人権を尊重し、大切にしている心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より 5%向上させる。</p> <p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 60%以上にする。</p> <p>○平成 30 年度の大阪市英語力調査（英検 I B A）における、3 年生の英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>取組(11) <b>人権教育</b> <span style="float: right;">【施策 2 道徳心・社会性の育成】</span></p> <p>1 人 1 人の人権を大切に、大切にしている心と態度を人権について学ぶ取り組みを通して育てる。</p> <p>指標：学校評価アンケート「学校では人権を尊重し、大切にしている心と態度を育てるための、さまざまな人権について学ぶ機会がある」の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度よりも 5 % 向上させる。</p>	

取組(12) <b>インクルーシブ教育</b> <b>【施策2 道徳心・社会性の育成】</b> 全ての子どものための教育である「インクルーシブ教育」を基本とする考え方をもち、生徒一人ひとりの能力や困りごとに考慮し、みんなで一緒に学ばせるといった考え方を深めていく。
指標：生徒や場所に合わせた指導・支援の行い方を学ぶため、障がい理解についての研修を年間3回以上行う。
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>
取組(1) <b>自尊感情</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。
指標：年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。
取組(2) <b>主体的・対話的で深い学び</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 学校生活の様々な場面で、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を積極的に取り入れる。また、そのための研修等を計画していく。
指標：年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
取組(3) <b>放課後学習</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> YTを活用し、放課後も含めた学習を部活や学級・学年で学習を進めていく。積極的に取り入れる。また、そのための呼びかけや計画を示していく。
指標：年度末の校内調査において、各学年・学級・部活動などでYTを利用した回数を年間12回以上実施する。
取組(4) <b>家庭学習</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 家庭学習の習慣化を図るため、宿題や提出物を計画的に課す。そのための仕組みを、学校全体で検討していく。
指標：学校評価アンケート（生徒用）の「宿題や提出物を期限内に出している」の項目で、肯定的回答率を前年度より向上させる。
取組(5) <b>国語科</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 基礎学力の定着を図るために、視写、音読、暗唱、小テスト、読解スキルトレーニングなどの学習を繰り返し実施する。
指標：定期テストにおける漢字の平均正答率を70%以上にする。
取組(6) <b>社会科</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 基礎学力の定着のために宿題、確認テストを行う。また、ICT機器(プロジェクター、スクリーン、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。
指標：チャレンジテストにおいて、対府比平均95%以上とする。
取組(7) <b>数学科</b> <b>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</b> 全学年、前年度より課題の量を増やし、基礎・基本事項の定着を促す。また、補習の時間を設け、学力の向上につなげる。
指標：チャレンジテストにおいて、前年度の対府比を上回る。

取組(8) <b>理科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 生徒が意欲的に理科の学習に取り組み、基礎学力の定着を図るため、ICT を積極的に活用し、実験・観察を多く取り入れる。	
指標：実験・観察を取り入れた授業を年間6回以上実施する。学年末の学習に関するアンケートにおいて、理科の授業が『わかる』の肯定的回答率を70%以上にする。	
取組(9) <b>英語科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 家庭学習を促すため毎回単語練習などの課題を出し、点検すると共に小テストなどを実施し、反復練習につとめる。	
指標：中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
取組(15) <b>英語教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 「デジタル教科書」を使用したり、「基礎英語 LEAD」のような ICT 教材を活用したりすることで、4技能（聞く、話す、読む、書く）の強化を図ることができるような教材づくりにつとめる。	
指標：平成30年度の大阪市英語力調査において、第1学年では英検5級以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上、第2学年では英検4級以上を50%以上、第3学年では英検3級以上を50%以上にする。	
取組(16A) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT 機器について、その使い方などを広め、授業での活用を促すため、整備をすすめる。	
指標：職員アンケートをとり、「授業でどの程度 ICT 機器を利用していますか」の使用頻度「週に1回以上」の項目が全教員の過半数をこえる。	
取組(16B) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 隔週で来る ICT 支援員を活用し、研修等を通して、全教員が ICT 機器を有効に活用できるよう促す。	
指標：職員アンケートをとり、「ICT 機器を利用し、授業他さまざまな業務に活用している」の肯定的回答率を9割以上にする。	
取組(16C) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 タブレットを各学年視聴覚教室に整備し、授業での活用を促す。	
指標：授業を受け持っている全教員が、年間を通して1回以上、授業で活用する。	
取組(17) <b>多文化共生教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 今年度より発足した人権委員会において、これまでの活動を見直すとともに、生徒の実態に応じて今後の取り組み内容を精査・検討し、学校全体で他者理解を深められるような実践を行っていく。	
指標：年度末の校内調査において、「学校では、人権を尊重し、大切にしている心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目について肯定的な考えを示す生徒の割合を、前年度より5%向上させる。	
取組(20) <b>食育・眠育</b> 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。	
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	

取組(21)	性教育	【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】
自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成し相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することを目指して、発達段階に応じた性教育に取り組む。		
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「思うやりの心を大切にしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。		
取組(24)	校内研修	【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】
授業研究を伴う校内研修を行うことで、すべての教員が互いに学び合い、授業力の向上を図る。また、学習指導要領の改訂に伴う変化に対応すべく研修等を計画していく。		
指標：学校評価アンケート（生徒用）の「先生方は、授業の内容や教え方をいろいろと工夫している。」の項目で、肯定的回答率を前年度より向上させる。		
取組(25)	施設整備	【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】
ICT教育推進の環境整備と鍵の再整備を前年度に引き続いて継続して取り組み。限られた予算内で、老朽化対策も着実に進める		
指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校は、校内美化など環境整備がなされている。」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。		
29年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
人権教育	年間計画に基づいて人権学習を実施。学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にすることを育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目について肯定的な回答が昨年度より5%上昇した。	
インクルーシブ教育	近隣の障がい者活動センターなどと連携し、障がい者問題学習や性教育といった取組みを推進することができた。	
放課後学習	現在までに、1年生は、65回、2年生は50回、3年生は75回となり、当初の指標を達成できた。	
国語科	定期テスト漢字正答率を中間評価と2学期期末（3年は学年末を含む）を比較した。試行錯誤の結果、1-1：8%減、1-2：8%減、2-1：28%増、2-2：17%増、2-3：24%増、3-1：3%増、3-2：2%増となった。	
数学科	数学が苦手な生徒が多く、今年度も府平均や全国平均より大きく下回ってしまった。グループ学習や、テスト前の補習授業は有効だと感じている。	
社会科	基礎学力の定着ために宿題、確認テストを行った。また、ICT機器（プロジェクター、スクリーン、電子黒板）を有効活用することができた。しかし、グループ学習は実施できていない。3年生のチャレンジテストにおいては、府平均に対してマイナス4.8ポイントとなった。	
理科	学習内容に合わせて、ICT機器の有効活用、実験・観察を行うことで、生徒の理科に対する意欲・関心を向上させることができた。また、小テストの実施、課題を適宜与えることで基礎学力の定着を図った。	
英語科	単語テストの平均点は年度当初と直近のものを比較して、1・3年生は下がったものの、2年生は上がった。また、正答率4割以下の生徒は1年生で9%減、2年生で11%減であったが、3年生では23%増になった。	
ICT教育	プロジェクターや授業用パソコン、タブレットの使用率は昨年度より増加したが、整備が不十分であった。	
校内研修	全教員が、年間1回以上の研究授業は行うことができたが、年次に関わる教員以外で2回以上の研究授業を行うことができなかった。全体授業研究に関しては、計画を大きく上回り、年間4回（7月5日、8月31日、9月25日、1月29日）実施することができた。	

### 30年度への改善点

**人権教育** 生徒並びに教員の人権意識を高める必要がある。また人権教育に今年度の時数を確保することは厳しくなるので、抜本的な改革が必要である。

**インクルーシブ教育** 障がい者問題学習や性教育の取組み内容を見直し、今の子どもたちに必要なことや何を学ばせたいのかを検討する必要がある。また、性教育では、『LGBT』に取り組む必要がある。取組み内容が重ならないように小学校との連携も必要である。

**放課後学習** ショートステップ教材は整備されたが、その運用に関しては各学年で差があるようである。今後は、効果的に教材を活用できるような仕組みが必要である。

**国語科** 漢字学習、小テストを授業で継続して行う。小テスト前に数分の学習時間を設け、学習習慣を身につけさせる。

**数学科** それぞれの進度に合わせた形で授業や補習を工夫するなどの必要がある。

**社会科** グループ学習を積極的に取り入れていきたい。

**理科** 引き続き、ICT機器の有効な活用法、実験・観察の授業の取り入れ方などについて考え、生徒が意欲・関心をもって理科を学べるようにする。また、小テスト・課題などを用いて、基礎学力の定着を図っていく。

**英語科** 継続して単語テストを実施し語彙力を高めていけるよう努める。そのために、単語練習に取り組む時間をとる・課題を出すなどを行う。3年生に関しては単語数も増え、内容も難しくなるので、こまめに点検・テストを繰り返していく。

**ICT教育** タブレットの使用を活性化するためには、設備の充実ももちろんであるが、使用する際の操作方法の研修や授業プランの提示、生徒への事前の技術指導などが必要である。

**校内研修** 全体授業研究を伴う授業以外の研究授業では、時間割の関係や生徒指導などあまり参観者が集まらないこともあった。次年度は、より多くの教員に研究授業を参観していただけるように、日程の設定、参観者の呼びかけを行っていく。

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 次年度（今後）への改善点

大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】配付申請書

**学校申請額 900,000 円**

※配付上限額(※円単位)								
学校配当		学級数		学級配当		特別支援学級数		学級配当
350,000	+	6	×	50,000	+	5	×	50,000
配付上限額								
=	900,000							

## ◆取組内容・予算内訳

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

取組(11) **人権教育** 【施策 2 道徳心・社会性の育成】  
1人1人の人権を大切にし、大切にすることを人権について学ぶ取り組みを通して育てる。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(1) **自尊感情** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。

取組(17) **多文化共生教育** 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】  
今年度より発足した人権委員会において、これまでの活動を見直すとともに、生徒の実態に応じて今後の取り組み内容を精査・検討し、学校全体で他者理解を深められるような実践を行っていく。

## 予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
13	芸術鑑賞委託料	350,000 円

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(3) **放課後学習** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
YTを活用し、放課後も含めた学習を部活や学級・学年で学習を進めていく。積極的に取り入れる。また、そのための呼びかけや計画を示していく。

取組(4) **家庭学習** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
家庭学習の習慣化を図るため、宿題や提出物を計画的に課す。そのための仕組みを、学校全体で検討していく。

取組(5) **国語科** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
基礎学力の定着を図るために、視写、音読、暗唱、小テスト、読解スキルトレーニングなどの学習を繰り返し実施する

取組(7) **数学科** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
全学年、前年度より課題の量を増やし、基礎・基本事項の定着を促す。また、補習の時間を設け、学力の向上につなげる。

取組(9) **英語科** 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
家庭学習を促すため毎回単語練習などの課題を出し、点検すると共に小テストなどを実施し、反復練習につとめる。

予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-3	教材(基礎学力向上支援・放課後学習支援)	100,000円

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(6) **社会科** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
基礎学力の定着のために宿題、確認テストを行う。また、ICT機器(プロジェクター、スクリーン、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。

取組(8) **理科** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
生徒が意欲的に理科の学習に取り組み、基礎学力の定着を図るため、ICTを積極的に活用し、実験・観察を多く取り入れる。

取組(15) **英語教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
「デジタル教科書」を使用したり、「基礎英語 LEAD」のようなICT教材を活用したりすることで、4技能(聞く、話す、読む、書く)の強化を図ることができるような教材づくりにつとめる。

取組(16A) **ICT教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
ICT機器について、その使い方などを広め、授業での活用を促すため、整備をすすめる。

取組(16B) **ICT教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
隔週で来るICT支援員を活用し、研修等を通して、全教員がICT機器を有効に活用できるよう促す。

取組(16C) **ICT教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
タブレットを各学年視聴覚教室に整備し、授業での活用を促す。

取組(24) **校内研修** 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】  
授業研究を伴う校内研修を行うことで、すべての教員が互いに学び合い、授業力の向上を図る。また、学習指導要領の改訂に伴う変化に対応すべく研修等を計画していく。

取組(25) **施設整備** 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】  
ICT教育推進の環境整備と鍵の再整備を前年度に引き続いて継続して取り組み。限られた予算内で、老朽化対策も着実に進める。

予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
11-1	ICT周辺機器	100,000円
18-2	ICT機器	250,000円

**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

取組(12) **インクルーシブ教育** 【施策2 道徳心・社会性の育成】  
全ての子どものための教育である「インクルーシブ教育」を基本とする考え方をもち、生徒一人ひとりの能力や困りごとに考慮し、みんなで一緒に学ばせるといった考え方を深めていく。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(1) **自尊感情** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。

取組(2) **主体的・対話的で深い学び** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
学校生活の様々な場面で、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を積極的に取り入れる。また、そのための研修等を計画していく。

取組(17) **多文化共生教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
 今年度より発足した人権委員会において、これまでの活動を見直すとともに、生徒の実態に応じて今後の取り組み内容を精査・検討し、学校全体で他者理解を深められるような実践を行っていく。

取組(20) **食育・眠育** 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】  
 基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。

取組(21) **性教育** 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】  
 自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成し相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することを目指して、発達段階に応じた性教育に取り組む。

予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
8-1	講師謝礼	100,000円
	・	
	・	
	・	

申請受付日  
 指導部で記入 →  /

【様式 3 - 1】  
 (所属コード  7 4 2 6 9 3 )

大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書

年度目標	達成状況
<p style="color: red; font-weight: bold;">【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全市共通目標（小・中学校）</span></p> <p>①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>④年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校の年度目標</span></p> <p>①年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p> <p>②年度末の校内調査において、遅刻の生徒の割合を、前年度より10%削減させる。</p> <p>⑥年度末の校内調査において「学校では、人権を尊重し、大切に作る心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p> <p>⑦年度末の校内調査（対保護者）における「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目に対して、肯定的な意見を示す割合を85%以上にする。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全市共通目標（小・中学校）</span></p> <p>④年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校園の年度目標</span></p> <p>①年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p style="color: red; font-weight: bold;">【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>取組(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">安心安全</span> <span style="float: right;">【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</span></p> <p>休み時間などの巡視徹底と行事ごとの来校者の受付を実施することで、子どもたちの安全を図る。</p> <p>指標：年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p>	

取組(2A) <b>いじめ対応</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、毎学期いじめアンケートを実施し、教育相談などで個々に話を聞き対応する。	
指標：年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組(2B) <b>いじめ対応</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめについて考える日」には、校長の講話、道徳、生徒会で作ったアンケートを実施し、また「許すな、いじめ！矢田中3原則」を掲げる。	
指標：生徒会発信の「いじめアンケート」を1学期と3学期に実施し、①と②の項目で「ない」と回答した生徒の割合を、3学期には90%以上にする。	
取組(3) <b>不登校対応</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、3日連続休んだ生徒に対しては、必ず家庭訪問を行い、新たな不登校生をつくらない体制をつくる。	
指標：昨年度、不登校生の数が21名と全校生徒の10%以上であったのを、8%に減らす。	
取組(6A) <b>生徒会活動</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生徒会新聞の発行、募金活動、全校集会の司会や生徒議会の活性化を図り、生徒会や委員長が活躍できる機会を増やしていくことで、リーダー育成を図る。	
指標：年度末の校内調査における「矢田中学校が好きである」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	
取組(6B) <b>生徒会活動</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生徒会交流や地域活動に積極的に参加し、スクールリーダーを育成する。また 地域と連携し、地域少年防災リーダーにつなげていく。	
指標：年度末の校内調査における「地域でのいろいろな行事に参加する機会がある」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	
取組(7) <b>防災教育</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 避難訓練を2回、地域防災訓練を1回実施する。避難訓練では、防災計画の職員役割担当を活用し、職員の防災意識を高める。また、職員が生徒たちと真剣に活動に取り組むことで、生徒の防災意識も高めていく。	
指標：年度末の校内調査における「この学校は安心して学校生活を送られる」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	
取組(8) <b>美化活動</b> 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「居心地の良い」教育環境を美化の観点から整備し、みんなの協力で維持できているかを意識させるためアンケートをおこなう。	
指標：「協力して美化に努めた」という項目で過半数が肯定的な回答をすることを目指す。	
取組(12) <b>インクルーシブ教育</b> 【施策2 道徳心・社会性の育成】 全ての子どものための教育である「インクルーシブ教育」を基本とする考え方をもち、生徒一人ひとりの能力や困りごとに考慮し、みんなで一緒に学ばせるといった考え方を深めていく。	
指標：生徒や場所に合わせた指導・支援の行い方を学ぶため、障がい理解についての研修を年間3回以上行う。	

取組(15) <b>地域連携</b> 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 矢田7校の取組や、矢田中校区3校の取組に加え、保護司会や民生委員会との連携を強化し、情報共有のみならず、地域全体での支援体制の構築を図る。	
指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校は、PTAや地域の方々とよく連携を図っている。」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。	
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>	
取組(1) <b>自尊感情</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。	
指標：年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。	
取組(2) <b>主体的・対話的で深い学び</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 学校生活の様々な場面で、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を積極的に取り入れる。また、そのための研修等を計画していく。	
指標：年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	
取組(6) <b>社会科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 基礎学力の定着のために宿題、確認テストを行う。また、ICT機器(プロジェクター、スクリーン、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。	
指標：チャレンジテストにおいて、対府比平均95%以上とする。	
取組(8) <b>理科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 生徒が意欲的に理科の学習に取り組み、基礎学力の定着を図るため、ICTを積極的に活用し、実験・観察を多く取り入れる。	
指標：実験・観察を取り入れた授業を年間6回以上実施する。学年末の学習に関するアンケートにおいて、理科の授業が『わかる』の肯定的回答率を70%以上にする。	
取組(15) <b>英語教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 「デジタル教科書」を使用したり、「基礎英語 LEAD」のようなICT教材を活用したりすることで、4技能(聞く、話す、読む、書く)の強化を図ることができるような教材づくりにつとめる。	
指標：平成30年度の大阪市英語力調査において、第1学年では英検5級以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上、第2学年では英検4級以上を50%以上、第3学年では英検3級以上を50%以上にする。	
取組(16A) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器について、その使い方などを広め、授業での活用を促すため、整備をすすめる。	
指標：職員アンケートをとり、「授業でどの程度ICT機器を利用していますか」の使用頻度「週に1回以上」の項目が全教員の過半数をこえる。	
取組(16B) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 隔週で来るICT支援員を活用し、研修等を通して、全教員がICT機器を有効に活用できるよう促す。	
指標：職員アンケートをとり、「ICT機器を利用し、授業他さまざまな業務に活用している」の肯定的回答率を9割以上にする。	

取組(16C)	ICT教育	【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 タブレットを各学年視聴覚教室に整備し、授業での活用を促す。
指標：授業を受け持っている全教員が、年間を通して1回以上、授業で活用する。		
取組(20)	食育・眠育	【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。		
取組(21)	性教育	【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成し相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することを目指して、発達段階に応じた性教育に取り組む。
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「思うやりの心を大切にしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。		
取組(24)	校内研修	【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 授業研究を伴う校内研修を行うことで、すべての教員が互いに学び合い、授業力の向上を図る。また、学習指導要領の改訂に伴う変化に対応すべく研修等を計画していく。
指標：学校評価アンケート（生徒用）の「先生方は、授業の内容や教え方をいろいろと工夫している。」の項目で、肯定的回答率を前年度より向上させる。		
取組(25)	施設整備	【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 ICT教育推進の環境整備と鍵の再整備を前年度に引き続いて継続して取り組み。限られた予算内で、老朽化対策も着実に進める。
指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校は、校内美化など環境整備がなされている。」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。		
29年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p><b>安心安全・いじめ対応</b> 教職員の巡視を継続し、「いじめ」の未然防止と早期解決に努めた。平成29年度の学校評価アンケートにおける「安心して学校生活を送られる」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合が平成28年度より8%向上した。</p> <p><b>不登校対応</b> 「いじめ防止・不登校対策委員会」を2ヶ月に1回定期的に開催し、必要に応じて臨時で開催している。</p> <p><b>防災教育</b> 防災訓練を3回以上実施し、そのうち1回は地域と一緒に取り組んだ。また火災訓練では職員が119番通報や誘導、初期消火の演習、生徒も初期消火の演習を実践することで防災意識が高められるよう努めた。</p> <p><b>インクルーシブ教育</b> 近隣の障がい者活動センターなどと連携し、障がい者問題学習や性教育といった取組みを推進することができた。</p> <p><b>社会科</b> 基礎学力の定着のために宿題、確認テストを行った。また、ICT機器（プロジェクター、スクリーン、電子黒板）を有効活用することができた。しかし、グループ学習は実施できていない。3年生のチャレンジテストにおいては、府平均に対してマイナス4.8ポイントとなった。</p> <p><b>理科</b> 学習内容に合わせて、ICT機器の有効活用、実験・観察を行うことで、生徒の理科に対する意欲・関心を向上させることができた。また、小テストの実施、課題を適宜与えることで基礎学力の定着を図った。</p>		

**ICT教育** プロジェクターや授業用パソコン、タブレットの使用率は昨年度より増加したが、整備が不十分であった。

**校内研修** 全教員が、年間1回以上の研究授業は行うことができたが、年次に関わる教員以外で2回以上の研究授業を行うことができなかった。全体授業研究に関しては、計画を大きく上回り、年間4回(7月5日、8月31日、9月25日、1月29日)実施することができた。

### 30年度への改善点

**安心安全・いじめ** 次年度も教職員の巡視を継続し、「いじめ」の未然防止に努める。また教職員間の連携を密にし、早期解決に努める。

**不登校対応** 「不登校生徒」の個々の問題に対してどのように解決していくかを考え、担任・学年保健主事、スクールカウンセラーらと連携し、「不登校生徒」が少しでも登校できるように努める。

**防災教育** 次年度も地域防災や避難訓練を実施し、内容の充実化を図りたい。

**インクルーシブ教育** 障がい者問題学習や性教育の取り組み内容を見直し、今の子どもたちに必要なことや何を学ばせたいのかを検討する必要がある。また、性教育では、『LGBT』に取り組む必要がある。取り組み内容が重ならないように小学校との連携も必要である。

**社会科** グループ学習を積極的に取り入れていきたい。

**理科** 引き続き、ICT機器の有効な活用法、実験・観察の授業の取り入れ方などについて考え、生徒が意欲・関心をもって理科を学べるようにする。また、小テスト・課題などを用いて、基礎学力の定着を図っていく。

**ICT教育** タブレットの使用を活性化するためには、設備の充実ももちろんであるが、使用する際の操作方法の研修や授業プランの提示、生徒への事前の技術指導などが必要である。

**校内研修** 全体授業研究を伴う授業以外の研究授業では、時間割の関係や生徒指導などあまり参観者が集まらないこともあった。次年度は、より多くの教員に研究授業を参観していただけるように、日程の設定、参観者の呼びかけを行っていく。

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 次年度(今後)への改善点

大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書

**学校申請額 2, 223, 000 円**

◆取組内容・予算内訳

**企画 1 「生徒の自尊感情の向上を目指して」(スクールリーダー育成から地域少年防災リーダーへ)**

**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

取組(2B) **いじめ対応** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

「いじめについて考える日」には、校長の講話、道徳、生徒会で作ったアンケートを実施し、また「許すな、いじめ!矢田中3原則」を掲げる。

取組(6A) **生徒会活動** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

生徒会新聞の発行、募金活動、全校集会の司会や生徒議会の活性化を図り、生徒会や委員長が活躍できる機会を増やしていくことで、リーダー育成を図る。

取組(6B) **生徒会活動** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

生徒会交流や地域活動に積極的に参加し、スクールリーダーを育成する。また 地域と連携し、地域少年防災リーダーにつなげていく。

取組(7) **防災教育** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

避難訓練を2回、地域防災訓練を1回実施する。避難訓練では、防災計画の職員役割担当を活用し、職員の防災意識を高める。また、職員が生徒たちと真剣に活動に取り組むことで、生徒の防災意識も高めていく。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(1) **自尊感情** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】

自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。

取組(2) **主体的・対話的で深い学び** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】

学校生活の様々な場面で、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を積極的に取り入れる。また、そのための研修等を計画していく。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
14-1	長居ユースホステル使用料 (2,900×20+20,000)	78,000
11-4	リーダーズ合宿記録DVD作成	50,000
14-1	稲村の火記念館入場料	5,000
11-4	フィールドワーク報告DVD作成	50,000
11-4	新聞印刷料	100,000
12-2	フィールドワーク・バス借り上げ代	100,000

**企画 2 「生徒の基本的な生活習慣確立を目指して」**

**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

取組(1) **安心安全** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

休み時間などの巡視徹底と行事ごとの来校者の受付を実施することで、子どもたちの安全を図る。

取組(2A) **いじめ対応** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】  
 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、毎学期いじめアンケートを実施し、教育相談などで個々に話を聞き対応する。

取組(2B) **いじめ対応** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】  
 「いじめについて考える日」には、校長の講話、道徳、生徒会で作ったアンケートを実施し、また「許すな、いじめ! 矢田中3原則」を掲げる。

取組(3) **不登校対応** 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】  
 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、3日連続休んだ生徒に対しては、必ず家庭訪問を行い、新たな不登校生をつくらない体制をつくる。

取組(15) **地域連携** 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】  
 矢田7校の取組や、矢田中校区3校の取組に加え、保護司会や民生委員会との連携を強化し、情報共有のみならず、地域全体での支援体制の構築を図る。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(20) **食育・眠育** 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】  
 基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-2	エアコン等環境整備費	500,000

企画3 「生徒の学力向上を目指して」

**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

取組(12) **インクルーシブ教育** 【施策2 道徳心・社会性の育成】  
 全ての子どものための教育である「インクルーシブ教育」を基本とする考え方をもち、生徒一人ひとりの能力や困りごとに考慮し、みんなで一緒に学ばせるといった考え方を深めていく。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

取組(6) **社会科** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
 基礎学力の定着のために宿題、確認テストを行う。また、ICT機器(プロジェクター、スクリーン、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。

取組(8) **理科** 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】  
 生徒が意欲的に理科の学習に取り組み、基礎学力の定着を図るため、ICTを積極的に活用し、実験・観察を多く取り入れる。

取組(15) **英語教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
 「デジタル教科書」を使用したり、「基礎英語 LEAD」のようなICT教材を活用したりすることで、4技能(聞く、話す、読む、書く)の強化を図ることができるよう教材づくりにつとめる。

取組(16A) **ICT教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
 ICT機器について、その使い方などを広め、授業での活用を促すため、整備をすすめる。

取組(16B) **ICT教育** 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】  
 隔週で来るICT支援員を活用し、研修等を通して、全教員がICT機器を有効に活用できるよう促す。

取組(16C)	<b>I C T 教育</b>	<b>【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</b> タブレットを各学年視聴覚教室に整備し、授業での活用を促す。
取組(24)	<b>校内研修</b>	<b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> 授業研究を伴う校内研修を行うことで、すべての教員が互いに学び合い、授業力の向上を図る。また、学習指導要領の改訂に伴う変化に対応すべく研修等を計画していく。
取組(25)	<b>施設整備</b>	<b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> I C T 教育推進の環境整備と鍵の再整備を前年度に引き続いて継続して取り組み。限られた予算内で、老朽化対策も着実に進める。

予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-2	大型ディスプレイ (4台)	1,000,000

#### 企画4 「安心安全で心安らぐ学校づくり」

##### 【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

取組(1) **安心安全** **【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】**  
休み時間などの巡視徹底と行事ごとの来校者の受付を実施することで、子どもたちの安全を図る。

取組(8) **美化活動** **【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】**  
「居心地の良い」教育環境を美化の観点から整備し、みんなの協力で維持できているかを意識させるためアンケートをおこなう。

##### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

取組(20) **食育・眠育** **【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】**  
基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。

取組(21) **性教育** **【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】**  
自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成し相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することを旨として、発達段階に応じた性教育に取り組む。

予算内訳		
予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-2	校内放送用音響機器	100,000
11-1	多目的トイレ用シャワートイレ機器	120,000
8-1	スクールカウンセラー謝金 (12,000円×10回)	120,000

大阪市立矢田中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書  
(補足説明資料)

## 企画 1 「生徒の自尊感情の向上を目指して」

(スクールリーダー育成から地域少年防災リーダーへ)

### ○ 立案の背景

- ・ 本校の最大の課題として自尊感情の育成が求められている。
- ・ 「いじめ」を許さない集団育成を図る必要がある。
- ・ 地域の防災活動が伝統的に盛んであり、学校としても長年取り組んできている。

### ○ リーダー育成の取り組み

- ・ 5月7日いじめを考える日に向けて生徒会として、いじめ撲滅に向けた取り組みを行う。
- ・ 生徒会、委員会の活動を見直し、自らの生活課題を見直す取り組みや、自らの置かれた立場や状況を、客観的、主体的にとらえる活動を通して、自尊感情の育成につなげる。
- ・ 夏休みに長居ユースホステルを使い、リーダーズ合宿を実施し、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を研修し、今後の学級活動や委員会活動に実践していく準備とする。

長居ユース使用料、 $2,900 \times 20 + 20,000 = 78,000$  円 (食費等は実費徴収)

合宿記録DVD作成 50,000 円

### ○ 防災学習を通じた姉妹校締結と生徒間交流の取り組み

- ・ 和歌山県湯浅町立湯浅中学校との姉妹校締結をする。
- ・ ICT (スカイプ等) を活用し、生徒集会や生徒議会の交流を通して、合同集会や合同会議を開催する。
- ・ 夏休みに、矢田中学校防災リーダー (30 人程度) を組織し、湯浅中学校を訪問し、湯浅地域の防災フィールドワークを実施する。

稲村の火記念館入場料大人  $500 \text{ 円} \times 4 + \text{生徒 } 100 \text{ 円} \times 30 = 5,000$  円

バス借り上げ代 100,000 円、報告DVD作成 50,000 円

### ○ 地域少年防災リーダー育成の取り組み

- ・ 各学年が取り組む防災学習や、地域合同防災訓練の際、生徒の中心的役割を担う。
- ・ 3 学期に地域合同防災フォーラムを実施し、矢田中少年防災リーダーと、矢田東、矢田北各地区の防災リーダーとの接点を作る。
- ・ 夏休みの防災フィールドワークや、防災学習、防災訓練を記録し、文化祭や地域合同防災フォーラムで発表する。
- ・ 防災新聞 (取組のまとめ) 作成し、今年度の取り組みの総括度次年度への継承を行う。

新聞印刷料 100,000 円

## 企画2 「生徒の基本的な生活習慣確立を目指して」

### ○ 立案の背景

- ・ 本校生徒の置かれた厳しい経済状況（2割を超える生活保護世帯、準要保護を加ええると6割に近づく状況）と家庭環境（35%に達する一人親世帯）
- ・ 先述の朝食習慣や睡眠習慣に現れている基本的な生活習慣の課題
- ・ 昨年度から進めている地域一体化教育の進展
- ・ 給食室に過去使用していた食器等調理機材が残されている。

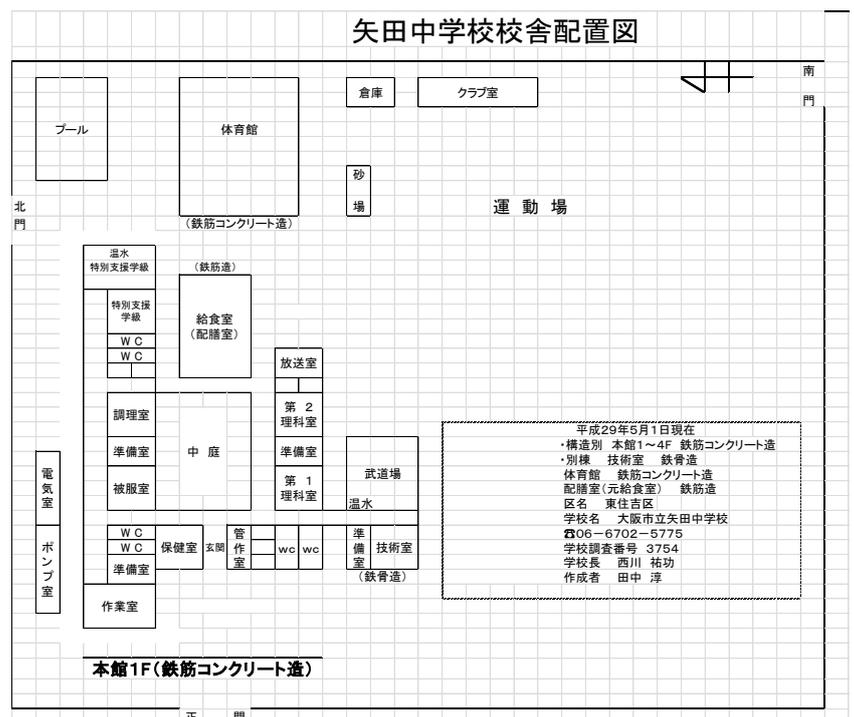
### ○ 社会開放スペースを設置し、学校の課題解決のため活用する。

- ・ 1・4階部分と2・3階部分のセパレート化（カギと電気系統）を行い開放スペースとする準備を行う。（済）
- ・ 1階部分に見守りカメラを設置し、安全確保と問題検証に役立てる。（済）
- ・ 4階多目的室で、区役所が協定を結んだ民間事業者による、塾代助成を活用した放課後学習会を開設する。（済）
- ・ 参加人数増加に備えて、「被服室」を社会開放スペースとしての環境整備を行う。

エアコン等環境整備費 500,000円

### ○ 保護者・地域と連携して子ども食堂開設する

- ・ 様々な調査の結果から、本校生徒の基本的な生活習慣育成は早急の課題であり、昨年度実施した学校協議会でそれが確認されている。協議委員からは、地域として何か支援したいという意見をいただいている。
- ・ 区役所においても子どもたちの居場所づくりについて、取り組みの方向性が示されている。
- ・ 今年度に入り学校協議会の委員や、地域の民生委員・保護司と話をする中で、学校の前にある福祉会館を利用しての子ども居場所と子ども食堂を作る案が持ち上がっている。
- ・ 今年度は、昨年度来積み上げてきた地域との共通理解をもとに生徒の居場所と子ども食堂を開設していきたい。



## 企画3 「生徒の学力の向上を目指して」

### ○ 立案の背景

- ・ 大阪市平均より 10%から 25%下回る得点力実態。
- ・ 無答率の高さと、未受験者の多さ、低得点層の多さ
- ・ 昨年度より実施している学力向上の取組の進展
- ・ 余剰教室の有効利用

### ○ 授業改革ビジョン

「普通教室に隣接した教室と特別支援学級の教室に、ICTと個別支援機材（コピー機能付き）を整備し、全ての授業に授業支援者（T2）を配置することにより、全ての授業において授業不参加者を作らない新たな矢田中授業のデザインを目指す取り組み。」

### ○ 矢田中学校 ICT 整備計画

**平成 29 年度**：各学年に ICT 教室（普通教室に隣接した教室）と特別支援学級の整備開始

1. プロジェクターとスクリーンを常設する。（済）
2. 2 系統の HDMI ケーブルを使って、授業用パソコンと画像転送装置を切り替えによって使えるシステムの整備（済）
3. 夏にケーブル工事を行い、ハブ整備の準備を行う（済）。
4. 数学、英語の電子教科書を使った授業の展開（済）
5. 戦略予算により英語のデジタル教材の契約を行う。（済）
6. 戦略予算によりショートステップ教材を購入し設置する。（済）
7. 戦略予算によりカラーコピー機（複合機）を購入し整備する。（済）

**平成 30 年度**：各学年の ICT 教室の機能強化と利用促進、平成 31 年度整備に向けた

1. ICT 支援員定期訪問校の指定を受け、ICT を活用した教育活動を加速させる。（済）
2. ICT 教室にタブレット保管庫を移動し各教室 15 台のタブレットを常設する。  
（タブレット保管庫 1 台を戦略予算で購入、タブレット 5 台を平成 31 年度購入予定）常時 2 人に 1 台のタブレットを使用できる状況の確保。（一人に 1 台を使用する場合は、他学年のタブレットを移動して使用する。）

タブレット保管庫は、基本配当で購入予定

3. ICT 教室にラッカスを設置し、授業用パソコンとタブレットを無線で連結しスクイメニューを使った授業展開ができる状況を確認し、タブレットを使った授業を促進する。
4. タブレットを使用しない授業に関しては、普通教室で展開できる機材の整備を行う。  
（1. 2 年の普通教室に、大型ディスプレイを設置し）

大型ディスプレイ 4 台（1.2 年普通教室用）× 250,000 = 1,000,000

5. 戦略予算により ICT 教室の音響整備を行う。
6. 審査に合格し情報教育優良校を取得する。

**平成 31 年度**：普通教室・特別教室での ICT 環境の整備

1. 普通教室・特別教室にハブを設置する。（委員会工事）
2. 普通教室で ICT 活用した授業ができる条件整備を進める。  
（3 年生の普通教室に、大型ディスプレイを設置）
3. ICT 教室のより高度な条件整備（プロジェクターと大型ディスプレイとの併用等）
4. 体育館で、タブレットを使用できる環境に整備
5. タブレットの増設により、各学年 20 台（総数 60 台）の確保を目指す。
6. 年度末に第 2 期整備計画の作成。

## 企画4 「安心安全で心安らぐ学校づくり」

### ○ 立案の背景

- ・ 一昨年度発生した「いじめ」事案を受け、本校の最重要案件として、生徒が安心して気持ちよく学習できる環境を整備する必要がある。
- ・ 昨年度実施できていないプラン実施したい。

### ○ 音楽あふれる心安らぐ休憩時間

校内の放送施設を利用して、休憩時間等に心安らぐ音楽を流し、生徒や教職員の心を安定させ、トラブルの未然防止に役立てるとともに、心を耕す教育に結び付けていく。

予算計画 100,000 円

### ○ 安心できるいやされるトイレづくり

誰にも経験があることだが、学校のトイレは、生徒たちにとっては不安な場所の一つである。そのトイレを安心して快適な場所にするには、学校自身が安心して安全な場所として感じるために大きな効果があると考えられる。まず、手始めとして多目的トイレ（障害者用トイレ）を整備し、シャワートイレを設置したいと考える。

予算計画  $40,000 \times 3$  か所 = 120,000 円

### ○ 毎月1回の生徒向けカウンセリングの日を設けて、心のケアを行う。

昨年度、毎週1回（金）配置されているスクールカウンセラーは、保護者（校区小学校含む）の予約でほぼ埋まってしまっていた。一方校内には、メンタルケアの必要な生徒（いじめ問題の影響もあり）も多く、スクールカウンセラーに繋がりたいという担任の要望も出てきた。そこで教育委員会や生活指導サポートセンターなどの支援をいただき、毎月1回火曜日に、特別にスクールカウンセラーに来ていただき、生徒のカウンセリングや担任の相談などを実施していただいた。本年度はそれを、校長経営戦略予算で実施していきたい。

予算計画  $12,000 \times 10$  回 = 120,000 円